

Pancreaticoduodenectomy for octogenarians under postoperative rehabilitation enhanced ERAS protocol

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード: 作成者: 岩永, 直紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002991

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2676 号

Feasibility of pancreaticoduodenectomy for very elderly patients based on postoperative nutritional assessment

術後栄養評価からみた超高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の実現可能性

岩永 直紀 (いわなが なおき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、術後の栄養回復の観点から超高齢者に対する膵頭十二指腸切除術 (pancreaticoduodenectomy; PD) の妥当性を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。PD は消化器外科のなかでも、合併症率が高く高難度手術であり、とくに 80 歳以上の超高齢者への本術式の適応については統一された見解は示されていない。本研究では 133 人の PD 症例を対象に、80 歳以上の超高齢者群 (20 例) と非超高齢者群 (113 例) の 2 群で、臨床背景、手術成績、長期予後、さらに術後栄養状態を比較している。本研究の症例数は過去報告と比較し多くないが、80 歳以上の超高齢者率は 15% と高く、また死亡例を認めず合併症発生率も既報にくらべ低率で治療成績は良好と思われる。また術後長期予後は超高齢者群で有意に不良 ($p=0.007$) であったが、多変量解析では年齢は独立した予後因子とはならなかったとしている。体組成を含む術後栄養状態の評価では超高齢者群の術後栄養回復は非超高齢者群と同等であった。以上結果から 80 歳以上の超高齢者であっても、高齢のみを除外基準とすべきではなく、適切な患者選択のもと PD 適応の妥当性が示されたと結論している。昨今、術後の低栄養やサルコペニアによる予後への影響がさまざま領域から報告されているが、これまで、術後の栄養学的回復の観点から超高齢者に対する PD の成績を評価した報告はない。従来、外科手術の評価として長期予後が汎用されているが、超高齢者の場合には長期予後の評価や解釈は難しく、今回、手術成績に加え術後栄養学的回復という新しい観点から評価した点で本論文には新規性を認め、またその成績も良好であり価値ある知見を示しているものと考えられた。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。